

特集 こんな教科書がほしい

中学校国語編集部

—アンケート集計結果より—

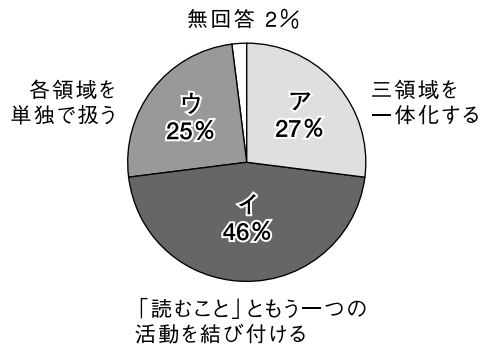
学習指導要領が大きく改訂され、平成十四年度からその内容に沿って編集された教科書の使用が始まりました。学校現場でこの教科書をお使いいただき、二年半が過ぎたわけですが、ご指導にあたっておられる先生方は、教科書の内容に対してさまざまな意見をお持ちのことと思います。

小社では、日々のご指導のなかで先生方がお持ちになった教科書へのご意見を広く伺うために、学期ごとにアンケート調査を実施しました。本誌上ですべてをご紹介することはできませんが、代表的なご意見について以下にご紹介いたします。これらの貴重なご意見をもとに、編集部では、平成十八年度からお使いいただく新しい教科書の編集を進めております。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習とその関連について

平成十四年度版教科書は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動が有機的につながり合う単元構成になっています。

Q1 各領域の学習は、どのような形で行うのが望ましいとお考えですか。



記述によるご意見

ア 三領域を一体化する

・言語活動は総合的なものなので、三領域一体型がよい。

・考え方は一体型でよいが、なんでも「話すこと・聞くこと」「書くこと」につながると、活動に無理が生じることもある。

・三領域一体型が理想だと思うが、実際の授業ではどこかの領域を省略せざるを得なかった。

イ 「読むこと」ともう一つの活動を結び付ける

・教材の特性や単元のねらいによって、一体化が単独扱いかの選択が変わる。すべてについて「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動をするのは、時間的にも内容的にも難しい。

・三領域一体型と、どれか一つの領域で学習を深める単元の両方があるといふ。

ウ 各領域を単独で扱う

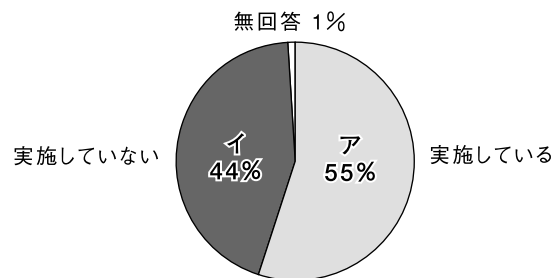
・何を評価しているかがはっきり意識化でき、授業方法を改善するきっかけになる。

・三領域一体型だと、指導が長引き新鮮味に欠ける。
・三領域一体型だと、「読むこと」「書くこと」に重きを置いてしまふ。

平成十四年度版教科書は、「読むこと」と「書くこと」とが関連した学習の中で、音声活動が行われるように意図しています。活動の様子を伝える音声資料も用意しました。

Q2

「話すこと・聞くこと」の授業やテストにおいて、リスニング（聞き取り）は実施されていますか。



実施例

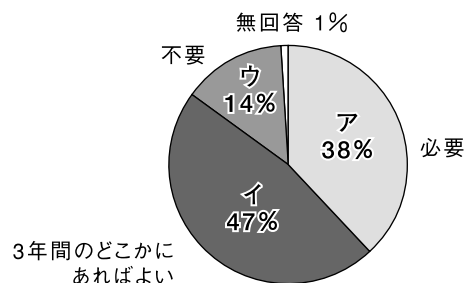
- ・教科書付属CDで聞き取りテストを実施
- ・過去教材の範読テープを聞かせ、内容をまとめて書かせた。
- ・新聞記事などの一部を放送で流し、五分から十分のテストにした。
- ・帯学習で聞き取りテストを実施

など

平成十四年度版教科書の「書くこと」の学習は、生活の場で生かされる文章を書くことを意図しています。

Q3

「書くこと」の学習において、日常の出来事について書く生活作文のような文章を学ぶ教材は、必要だと思いますか。



「書くこと」の学習で取り上げたい文種

- ・Eメールの書き方
- ・手紙（依頼状、礼状、はがきの書き方）
- ・レポート（報告文）
- ・自己推薦文
- ・新聞作り
- ・スポーツ観戦記、ドラマ感想記など、生徒の日常に合ったもの。
- ・読書感想文

など

寄せられたご意見から、学習内容は、生徒の現実に即したもので、かつバランスよく配置されている必要があることを強く感じました。

三領域一体化の構成は理想であるが…

時間数が絶対的に足りないという現場の状況を憂える声と、とはいっても、三領域を一体化して学習することで、生徒がつけた力を確認する場は欲しいという声が寄せられました。

「聞く力」が求められている

アンケートの回を増すごとに、なんらかの形で「聞くこと」を指導の中に取り入れたいという回答が増えていると感じます。一つには、高校入試にリスニング（聞き取り）問題が出題されることが増えてきたことによると思いますが、もう一つは、「話すこと・聞くこと」の学習でありながら、「話すこと」の学習にやや偏って焦点があてられてきたという実情があるからではないでしょうか。

「伝え合いの場」は、話し手ばかりでは成り立ちません。話し手と「聞き手」がそろってこそ双方向の

関係が成立し、その話し合いや聞き合いの場を共に作るという意識が生まれてくるのです。

話す力をつけるとともに、相手の意見を受け止めることのできる「聞き手」を育てることの重要性を先生方が感じになつてきているようです。「聞く力」をつける学習が強く求められているということが分かります。

日常のさまざまな場面で「書く」ことが増えている

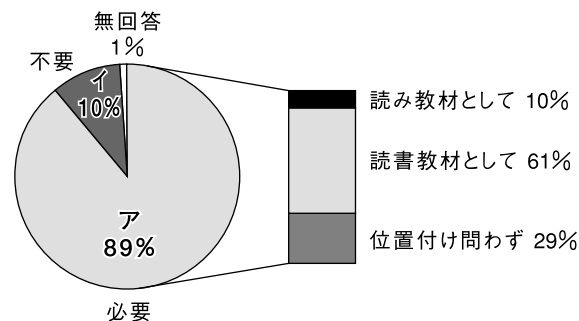
今、生徒の日常はさまざまな「書く」場面であふれています。アンケートの回答をみると、学習で取り上げたい文種として、メール、手紙（依頼文、礼状など）、レポートなどが多く挙がっています。これは、「総合的な学習の時間」などで、職場訪問などの機会が増えたことによると思われます。機能的な文章を書く学習が求められているということなのでしょう。ただ、同時に、国語科の学習においては、やはり優れた作品や文章を読み、自分に返っていく「書くこと」の学習も大切であるとの回答もありました。

文学教材について

近代文学の扱いについては、教科書に掲載した場合も、しない場合も議論が分かれます。小社でも試行錯誤を重ねてきました。

Q4

漱石、鷗外などの近代文学作品を、教科書教材に入れる必要があると思いますか。



記述によるご意見
ア 必要
イ 不要

- ・文章の力が違う。言葉の力を教えてくれる。
- ・近代文学の出発点として一度は触れさせたい。
- ・思いが深まる文学作品は、古くても新しくてもよい。
- イ 不要
- ・古すぎて臨場感が伝わらない。
- ・時代背景を理解させるのがたいへん。（授業時間が足りない。）

Q5

中学生に読ませたい近代文学の作家・作品を挙げてください。

※作家の上位五名

作家	作品
夏目漱石	『坊っちゃん』『吾輩は猫である』『夢十夜』
芥川龍之介	『鼻』『羅生門』『杜子春』『芋粥』『蜘蛛の糸』『トロコ』『蜜柑』『父』
森 鷗外	『高瀬舟』『舞姫』『山椒大夫』『最後の一句』
宮沢賢治	『注文の多い料理店』『なめとこ山の熊』『銀河鉄道の夜』『雨ニモマケズ』
志賀直哉	『清兵衛と瓢箪』『暗夜行路』『小僧の神様』

教科書に掲載されている作品の中には、先生方からのご要望が多く、かなり長い期間掲載されているものがありますが、時代背景など、生徒の理解が難しい部分があるという声を聞くことがあります。

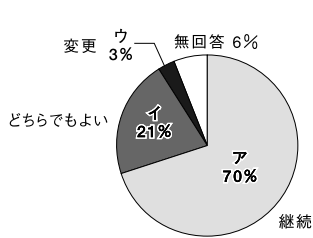
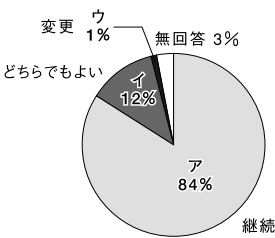
Q6

これらの作品を今後も継続して掲載すべきでしょうか。

- 『大人になれなかった弟たちに…』
- 継続したほうがよい理由
- ・簡潔な表現でも心を動かす文章があるといういいお手本。
 - ・平和について考える作品が減少している中で、読むだけで胸の痛みを感じることができ、貴重な作品。

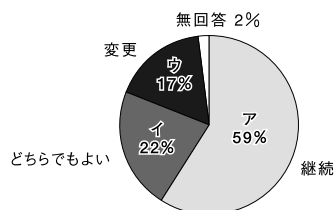
『字のないはがき』

- 継続したほうがよい理由
- ・短い文章の中に、家族への思い、平和への願いが表現されており適切。
 - ・無駄のない適切な文章で、父親の深い愛情が伝わる。ほかの向田作品を読む気にさせる。



『故郷』

- 継続したほうがよい理由
- ・隣国を舞台とした作品であること、社会的な視点を育てることの両面で価値がある。
 - そのほかのご意見
 - ・時代背景などの予備知識がないと難しい。



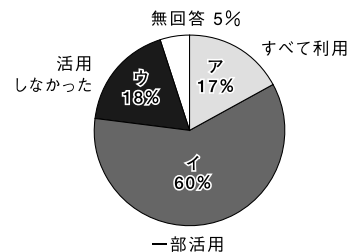
生徒の心に響く優れた作品を数多く読ませたいという意見が多く寄せられました。しかし、古典や近代文学など、古い時代の作品になればなるほど、生徒の現実から離れていくので、時代背景や語句の説明だけで配当時間が終わってしまうという現実もあるようです。

教材が優れているということはもちろんのことですが、作品内容を理解するためのフォローが教科書の中に求められているということでしょう。

学習の窓について

平成十四年度版教科書では、そこでの学習で身につけたい基礎・基本のポイントが生徒に分かりやすく伝わるよう「学習の窓」を随所に位置づけました。

Q7 「学習の窓」を授業の中でどの程度活用したかったですか。



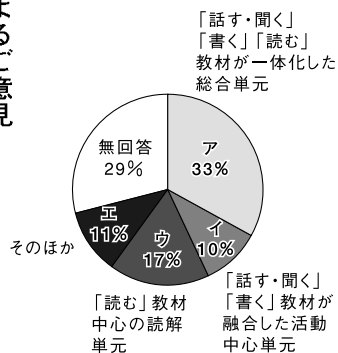
記述によるご意見

- ・学習課題と重なる部分については参考にした。教科書のままではやや難しいものがあるので、すべてを使うことはしなかった。
- ・学び方を身につけさせる意味で「学習の窓」は必要。

三学期の単元構成について

平成十四年度版教科書は、一・二年の三学期に、一年間の国語の学習の成果を生かす場として総合単元を位置づけています。

Q8 一・二年の三学期には、どのような単元が位置づいているとよいと思いますか。



記述によるご意見

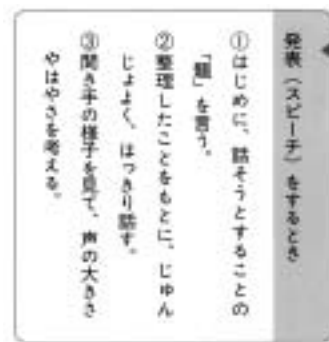
- ・基本的には総合単元がよいが、時間的な余裕がない。教科書には総合単元として載せ、教師側が教材研究をしてコンパクトにまとめた単元にするのも一つの手段。
- ・総合単元がよいと思うが、生徒の意欲を喚起するテーマを見つけにくい。テーマのヒント集がほしい。

- ・基礎的な部分の定着を図るために目立つようにしてほしい。

- ・より具体的な表現で解説されているほうがよい。
- ・教師側で選択して取り組むことができるので、現行の扱いのままで使いやすい。

平成十四年度版教科書から、「学習の窓」を設けました。「学習の窓」で、身につけたい基礎・基本のポイントが確認できるのがよい。ほかの教材でも活用できるのでよい」と、ご評価をいただいています。小社発行の小学校国語教科書でも「学習の窓」が設けられており、そこで学んだ基礎・基本の力は、中学校教科書の「学習の窓」でさらに深まっていきます。

位置づける教材や、その内容を今までもよりもさらに検討し、活用しやすい形を工夫していきたいと思っています。



▲ 小学校3年上巻
「調べたことを発表しよう」の「学習のまど」

Q9

三年の三学期には、どのような単元が位置づいているとよいと思いますか。（記述式）

- ・卒業文集の編集・作成と関連させ、各自が文種を選んで文字言語で表現するまとめの学習
- ・ほぼ教科書どおりに行っているが、高校入試の関係で話すこと（面接）、書くこと（小論文）を指導している。
- ・基本的な学習へ返りたいので、読解教材がほしい。

三領域を融合した構成である総合単元については、位置づけ、学習時期、内容などについてさまざまなご意見が寄せられました。

総合単元の必要性を感じている回答は多数でしたが、学習時期については、三学期のままでよいというご意見と、教師の裁量で時期が設定できるとよいというご意見に分かれました。

また、三年の三学期は行事や入試の関係もあって一・二年時よりもさらに時間的な余裕がなくなるようです。

一年間で培った力を確認する場として、三学期に総合単元のような学習の場を位置づけることは適当と思われるが、学校行事などの状況に合わせて指導できるように、配当時間、内容などを工夫することの必要性を感じました。

全体を通して

単元や教材の柔軟な構成が望まれている

教科書は、その編集の意図に沿って、各単元や教材には学習の指導時期と配当時間が想定されており、それぞれの教材で身につけた力を確認しながら学習を深めていくことができるような構成になっています。

ところが、学校行事などの関係から、学校現場ではなかなか配当時間どおりには指導を進めることができないという実情があると伺っています。例えば、月曜日の国語の時間と休日が重なれば、それだけで週三時間（一年生は四時間）しかない時間の一時間が短縮されるわけです。先生方の指導時間の確保へのご苦労は想像に難くありません。

指導時期に関しますと、三年生の修学旅行の時期に古典を学習するというように、学校行事に関連させて教材を指導できるというのが、というご意見がありました。現在お使いいただいている平成十四年度版の教科書は、「読むこと」から「書くこと」、そして「話すこと・聞くこと」の学習へと、各領域が有機的に結び付いた構成に

たので、その一部をご紹介させていただきます。

- ・「総合的な学習の時間」で扱ったような題材を、「国語科」として、どう取り組んでいくべきかを考えている。
- ・資料集を用いなくても、教科書内で、より豊富な資料を活用できるようにする。
- ・教科書全体に季節感やリズム感があればよいと思う。
- ・教科書の適切な場所に、折り込みの資料やカラー写真などをふんだんに掲載してほしい。
- ・生徒たちは、口当たりのよい、行間のない文章には接している。教科書には生徒を鍛える視点の骨太な作品を掲載してほしい。
- ・図書館利用のしかたなど、読書指導につながる教材を望む。
- ・詩、短歌、俳句などの教材を多く入れてほしい。言葉の響きや想像力、表現力を豊かにするという点でも意識的に授業で扱いたい。
- ・四色刷りになり、生徒が興味を持ちやすい教科書になったが、さらに視覚的効果の向上を期待する。
- ・マニュアル人間を育てる実用書ではなく、心豊かな人間への成長をつながす本質書としての教科書であってほしい。

なっており、学習指導要領の内容に沿った学習が展開できるように編集されております。しかし、それぞれの学校の事情や生徒の実態に合わせて、単元や教材の自由な組み換えができるような構成になると、より指導しやすいのではないかと考えられます。

また、生徒にとって、自分は今、「何を学習するのか」「なんの力をつけるために学習するのか」が明確に示されている教科書が求められていることが分かりました。単元の構成内容を編集する際、その単元や教材のはつきりとした目標を示すことが、指導しやすい教科書の重要なポイントになると思います。

教科書へのご要望について

アンケートでは、単元構成や三領域の扱いに対するご意見のほかに、「教科書がこのような構成になったら指導しやすい。」「このようなものが載っていれば使いやすい。」「といった教科書へのご要望についても伺いました。さまざまな観点から、たくさんのご意見をいただきました。

国語を学ぶ楽しさが実感できる教科書を目ざして

あるご意見の最後に次のような文が書かれていました。

教師も教科書ができるのを楽しみにしている。よりよい教科書を作ってほしい。

紙面いっぱいにご意見が書き込まれたアンケートを集計していきますと、先生方が教科書に期待されていることを強く感じます。わたしたちは、要望されていることをすべて実現するような気持ちで編集を進めていかなければならないと改めて思いました。

魅力ある作品を発掘していくこと、基礎・基本の力を確実に身につける教材や、生きて働く言葉の力が培われる教材の作成など、編集の課題は数多くありますが、国語の時間が待ち遠しくなる、国語を学ぶ楽しさが実感できる、そんな教科書の実現を目ざしていきたいと思っています。

アンケート対象人数 一一〇七人
「ご協力ありがとうございました。」